

令和5年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる
「共同研究班」 研究報告書

令和6年4月3日現在

研究課題名	②スラブ・ユーラシア地域と世界経済		
担当者	氏名	所属機関・職	
	服部 倫卓	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター・教授	
班員	氏名	所属機関・職	専門とする研究分野
	山脇 大	野村アセットマネジメント株式会社・ESG インベストメントマネージャー	移行経済論， 資源・気候変動政策論
	研究テーマ		
	ロシア企業の環境持続可能性の分析		

研究成果の概要

服部と山脇により、服部はマクロ経済、産業・通商政策、山脇は環境政策という役割分担の下、共同研究を進めた。

服部（2023a；2023b）では、2022年2月に始まったロシアによるウクライナ侵攻を背景に、プーチン政権による貿易情報開示が格段に低下したことに着目し、断片的なデータを突き合わせて全体像を推察し、そのことが環境政策に帯びているインプリケーションを探った。また、プーチン政権が軍事経済にさらにのめり込んでいったことを踏まえ、服部（2024）においてその動態を探り、その観点から環境政策への影響につき考察した。

山脇（2023）では、環境投資と情報開示をめぐるグローバルな潮流に言及したうえで、世界最大のエネルギー資源国かつ森林や水等の環境資源大国でもあるロシアに焦点を当て、その環境投資や情報開示に係る現状を俯瞰した。そのうえで、近年のロシアにおける制度的発展の状況を叙述し、同時により広い視座である経済制度やシステムの転換という観点から、ロシアにおいて環境投資と情報開示が他国と比べて進んでこなかった諸要因を読み解いてゆくことを試みた。その結果、①情報開示に係る制度的発展の遅延（スターティングポイントが2017年と他国に遅延、新型コロナウイルスへの政府対応による休題化、企業の情報開示義務への一定の免除措置等）、②ロシア企業の環境対応への消極的姿勢（環境行政の弱体化や資源レントの存在、企業の社会的コスト負担における環境の劣後等）、③ロシア企業の所有形態の特異性（民営化とその過程における所有のインサイダーへの集中等）といった点を、環境投資と情報開示が他国と比べて進んでこなかった要因として導き出した。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

<雑誌論文>

服部倫卓（2023a）「公式統計とミラーデータで見る 2022 年ロシアの貿易」『ロシア NIS 調査月報』, 5月号, 査読無し, 謝辞無し。

服部倫卓（2023b）「プーチン戦争でロシア対外経済発展計画は台無し」『ロシア NIS 調査月報』, 12月号, 査読無し, 謝辞無し。

服部倫卓（2024）「軍事ケインズ主義はロシア経済を救うか」『国際問題』, 2月号, 査読無し, 謝辞無し。

山脇大（2023）「環境投資と情報開示：ロシアにおける現状と課題の考察」『ロシア・東欧研究』, 第52号, 査読付き, 印刷中。*謝辞有り。

<学会発表>

服部倫卓（2023a）「ロシア・ウクライナの穀物・肥料輸出の地経学」比較経済体制学会第63回全国大会（神奈川大学、2023年6月4日）*謝辞なし。

服部倫卓（2023b）「Japan's Approach to Sanctions against Russia」55th Annual Convention of Association for Slavic, East European and Eurasian Studies (ASEEES), (Philadelphia, 2023年12月日) *謝辞なし。

山脇大（2023）「ロシアにおける環境投資と情報開示に関する一考察」ロシア東欧学会 全国大会 <共通論題「スラブ・ユーラシアの環境を考える」>（京都大学），2023年11月5日，京都・日本。*謝辞有り。

山脇大（2023）「中央銀行のグリーン化：ロシアに焦点を当てて」, 新潟県立大学国際経済研究 WS 『国家主導資本主義経済システムの多様性を考える』比較経済体制研究会松山部会と共催（松山大学），2023年7月1日，愛媛・日本。*謝辞なし。

当該研究活動をもとに採択された研究プロジェクト（応募中の研究プロジェクトを含む）

北海道大学 スラブ・ユーラシア研究センター 客員研究員（2024年度）「ロシアのグリーンファイナンス市場に関する研究」（2024年4月～現在）

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。